

海外自治体幹部交流協力セミナー2023（シンガポール事務所管内）

事業概要

地方交流事業テーマ:足元にある資源を活用した魅力の創造と発信

海外参加者数: 9名

HARIYONO SUGENG (Mr.) ハリヨノ スーゲン ※団長
インドネシア 内務省 人材開発局 局長
CHUA HEIDEE (Ms.) チュア ハイディー ※副団長
フィリピン アシガン町 副町長
ALI MAULANA HAKIM (Mr.) アリ マウラナ ハキム
インドネシア ジャカルタ首都特別州政府 北ジャカルタ市長
MOCHAMAD MIFTAHULLOH TAMARY (Mr.) モハマッド ミフタフーロー タマリ
インドネシア ジャカルタ首都特別州政府 人材開発局 局長
BIN RAMLI MOHAMAD NAZLI (Mr.) ビン ラムリー モハメッド ナズリー
マレーシア 地方自治体開発省 地方自治体局 課長
PREMATHILAKE GAYANI (Ms.) プレマティラケ ガヤニ
スリランカ 公共管理・内務・州評議会・地方政府省 法務官
PHAM THI HAU (Ms.) ファム ティ ホ
ベトナム 内務省 専門調査員
KIMRONG PHANNARA (Mr.) キムロン パンナラー
カンボジア 公務員省 大臣官房室 職員
DONADO PAOLO (Mr.) ドナード パオロー
フィリピン 地方行政学院 職員

日程

月日	内容	場所
11/12(日)	来日、オリエンテーション	東京都
11/13(月)	東京セミナー（日本の地方自治講義、都内施設視察） クレア主催歓迎レセプション	東京都
11/14(火)	東京セミナー（都内施設視察） 受入自治体（福島県白河市）へ移動 地方交流事業（白河市長表敬、行政説明） 白河市主催歓迎夕食会	東京都 白河市
11/15(水)	地方交流事業（視察）	会津若松市
11/16(木)	地方交流事業（視察、意見交換会） 帰国前夕食会	白河市
11/17(金)	地方交流事業（視察） 東京都へ移動	白河市 東京都
11/18(土)	帰国	—

【11月12日（日）】

参加者来日、オリエンテーション

【11月13日（月）】

（1）講義：日本の地方自治

東京でのセミナーの初日には、明治大学の木村俊介教授による「日本の地方行財政制度」の講義を受講し、日本の地方自治制度の変遷や現状について学んだ。参加者からは「日本の地方自治に関する包括的な内容について、要点を絞った説明でよく理解できた」などの感想があった。



（2）視察：東京都庁、小石川後樂園、浅草寺・仲見世通り

都内視察では、最初に東京都庁を訪れた。都民広場から、高さ約243m地上48階の「第一本庁舎」、高さ約163m地上34階の「第二本庁舎」、高さ約41m地上7階「都議会議事堂」を見学した。次に小石川後樂園を視察し、歴史ある日本式庭園の美しさと紅葉した木々が参加者を大いに魅了した。その後、浅草寺を訪れ、雷門や本堂をはじめ、多くの観光客が行きかう仲見世通りを視察し、参加者は江戸の風情が残る日本文化を体感した。



（３）クレア主催歓迎レセプション

クレア主催歓迎レセプションには参加者9名のほか、クレア常務理事、次年度クレアシンガポール事務所赴任予定者が参加し、互いの制度や文化などについて紹介し合い、交流を深めた。クレアから参加者への記念品として「魚津漆器（富山県魚津市）」のボウル皿を贈呈し、参加者は美しい伝統工芸品の日本土産を喜んだ。



【 11 月 14 日（火） 】

（１）視察：霞が関、皇居外苑、東京駅

都内視察の２日目には、霞が関の官公庁を見学した。特に、美しいみかげ石で装われた国会議事堂を写真に収める参加者が多くみられた。その後皇居外苑を訪れ、桜田門や大手門、皇居東御苑を見学しながら江戸時代から現在に至るまでの歴史について説明を受けた。最後に東京駅を訪れ、東京を象徴する駅舎を見学した。



～白河市へ移動～

（２）白河市長表敬

白河市に到着後、参加者は白河市役所を訪れ、鈴木和夫白河市長を表敬した。白河市役所では市長をはじめ職員の方々から温かい歓迎を受けた。訪問団の団長であるハリヨノ・スーゲン氏（インドネシアから参加）が受け入れへの感謝を述べ、記念品交換を行った。



（３）白河市概要説明

白河市職員より、白河市の歴史や観光資源である史跡、文化芸術に関する施設やイベントの紹介、食や農業における特徴や他の自治体との交流状況といった市の概要について説明を受けた。参加者は熱心に耳を傾けていた。



（４）白河市主催歓迎レセプション

白河市を訪れた初日の夜には白河市主催歓迎レセプションが開催された。アトラクションとして地元交響楽団による演奏やローカルヒーロー「ダルライザー」のショーが上演され、会場は大いに盛り上がった。参加者は鈴木白河市長をはじめ白河市職員との交流を楽しんだ。



【 11 月 15 日（水） 】

（１）視察：三菱ガス化学ＱＯＬイノベーションセンター

白河市内の工業団地「工業の森・新白河」内にある三菱ガス化学ＱＯＬイノベーションセンターを訪問した。はじめに、三菱ガス化学株式会社が実施する、社会的な生活の質の向上を目指した取り組みについて説明を受けた。その後、MGC ファームシップの国内最大級規模の完全人工光型植物工場でリーフレタスを生産している様子を見学した。また、MGC エージレスが製造している脱酸素剤「エージレス」の生産現場も見学した。参加者は工場の規模の大きさと先端技術に関心を示していた。



（２）昼食：蕎麦処 大福家

昼食は白河市でも屈指の名店である「蕎麦処 大福家」で白河そばをいただいた。白河市は日本四大蕎麦処の一つにも数えられている。今回は白河産そば粉を石臼挽きした香り豊かな自家製蕎麦を、白河そばの独特な盛り付け方法により提供していただき、地域性が感じられるおもてなしに参加者は大いに喜んでいた。



（３）視察：大堀相馬焼錨屋窯(陶芸施設)

昼食後は大堀相馬焼錨屋窯を訪れた。大堀相馬焼は、福島県浪江町大堀地区固有の焼き物であるが、東日本大震災発生以降、地区外避難を余儀なくされた窯元の職人が白河市で再開したのが、この錨屋（いかりや）窯であり、現在は「白河焼き」の復活にも取り組んでいるとのこと。参加者は、職人が実際に陶芸を行う様子が大変興味深いと語り、真剣に見学していた。



（４）視察：南湖公園、翠楽苑呈茶体験

続いて、参加者は南湖公園を訪れた。南湖公園の歴史は古く、1801年に白河藩主・松平定信により築造された。美しい湖とともに松・桜・楓などの木々が四季折々に表情を変え来場者を楽しませている人気のスポットとして知られている。今回の視察では紅葉した木々を見ることができ、参加者は夢中でシャッターを切っていた。また、庭園を眺めながらの呈茶体験では、参加者は店員に作法を聞きながら抹茶とお菓子を食し、日本文化を大いに味わった。



(5) (株)みちのく白河農園

この日最後の視察として、(株)みちのく白河農園を訪れた。白河市農産物の主要品目であるトマトの産地力強化を図るため、株式会社みちのく白河農園が整備している最先端の技術を駆使した生産拠点であるとの説明を受け、参加者は熱心に耳を傾けた。



【 11 月 16 日 (木) 】

(1) 視察：スマートシティ AiCT

視察 2 日目は白河市を離れ、会津若松市にある「スマートシティ AiCT」を訪れた。「スマートシティ AiCT」とは「スマートシティ会津若松」の取組みの一環として首都圏などの ICT 関連企業が機能移転できる受け皿として整備されたオフィス環境及びオフィス周辺エリアの総称である。ICT 関連企業の集積により、新たな雇用の機会創出や若年層の地元定着・地域活力の維持発展を目指しており、参加者は先進的な取組みに感心した様子で説明を聞いていた。



(2) 視察：鶴ヶ城

次に参加者は福島県会津若松市のシンボルである鶴ヶ城を訪れた。鶴ヶ城は約 630 年前に築城され、1868 年に起こった戊辰戦争の際には新政府軍の猛攻に耐えた「難攻不落の名城」としても有名であり、赤瓦の 5 層の天守閣がとて美しい日本百名城の一つである。参加者は天守の内部の博物館を見学し、会津の歴史について説明を受けた。



(3) 昼食：元祖輪箱飯 割烹・会津料理 田季野

昼食は会津若松市内の「田季野」にて会津の食材を生かした伝統料理「輪箱飯」をいただき、参加者は地域に古くから伝わる郷土の味を楽しんだ。

同店舗は城下町会津若松と日光を結ぶ下野街道の宿場、豪壮な糸沢陣屋を移築復元した建物で、店内の雰囲気や使用する器などにも奥深い会津の文化が凝縮されており、参加者は建物からも郷土の歴史の趣を味わった。



（４）視察：会津大学

続いて、参加者は会津若松市内にある公立大学法人会津大学を訪れた。会津大学は日本初のコンピュータ専門大学として、コンピュータ理工学コンピュータ理工学科の一学部一学科で1993年に開設され、人材の育成や研究等を通じて学問や科学技術の進歩に寄与するとともに、産業・文化の振興に貢献することを理念としている。国際化にも力を入れており、東南アジア地域との学生間交流も積極的に行っている説明を受け、参加者は交流内容について質問する等高い関心を示していた。



（５）帰国前夕食会

帰国前夕食会には、圓谷光昭白河市副市長をはじめ白河市職員が参加した。はじめに、訪問団副団長のチュア・ハイディー氏（フィリピンより参加）が挨拶し、セミナー期間中の感謝を伝えるとともに翌日に迫った白河市との別れを惜しんだ。続いて圓谷副市長よりご挨拶と乾杯のご発声をいただき、参加者は圓谷副市長をはじめ、職員との交流を楽しんだ。



【11月17日（金）】

（１）視察：小峰城歴史館・小峰城跡

白河市での視察最終日は、はじめに小峰城を訪問した。小峰城歴史館で築城から近現代までの城の歴史や、江戸時代の小峰城をVR（バーチャルリアリティ）により体験し、その後小峰城址を散策した。散策中には、石垣に残る東日本大震災の爪痕について説明を受け、参加者はその被害の大きさを目の当たりにした。



（２）意見交換会

白河市での視察の締めくくりとして参加者と白河市職員との意見交換会を実施し、はじめに参加者全員が本セミナーの感想を述べた。同日に訪れた小峰城址に残る震災の影響や、復興に関する視察内容が印象に残っていると話す参加者が多かった。また、初日の工場見学により工業や農業の先端技術について学べた点も有意義であったとの発言もあった。続いて行われた質疑応答では、市町村と都道府県の相互関係についての質問や、市の選挙制度に関する質問が参加者から寄せられ、市職員が丁寧に回答していた。



（３）だるま絵付け体験

意見交換後には、だるまランドでだるまの絵付け体験を行った。だるまランドは白河市の伝統工芸品である「白河だるま」をテーマとした体験型エンターテイメント施設で、参加者はだるまの絵付け体験やだるまをモチーフにしたお土産の購入を楽しんだ。



【 11 月 18 日（土） 】

参加者帰国

以上